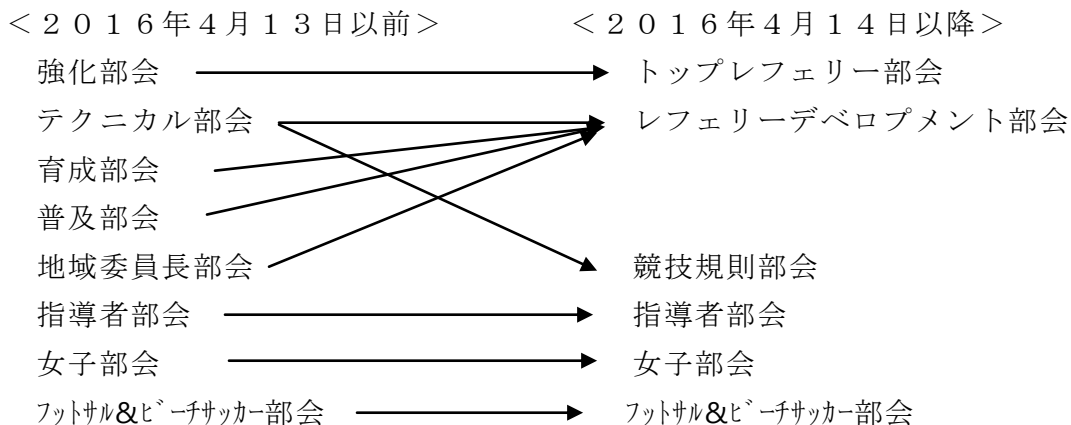




5月下旬に大学の総理大臣杯、そして6月に入り本格的に、全国大会に関わる予選大会もスタートしました。みなさんもお忙しい毎日の中、ご活躍のことと思います。

J F Aの関係では、審判委員会の委員長に、小川佳実氏が就任し組織も若干変わりました。また、昨年度から始まりましたレフェリーキャラバンも、順次進められながら、審判指導者の方も今後、プラクティカルやプレゼンなど得意な分野を活かしていく人材作りにシフトしていく様相があるようです。組織的な変化とともに、インストラクターに求められる能力も変化してきました。指導者の方は、“ハイテク”が進んでいます。パソコンを使っただけの指導も増えてきました。先日、昨年が続いてスキルアップ研修会（自費参加）がありましたが、google を使ったアンケート集約やオフサイドに関する PPT 教材、I T を活用した審判技術指導支援システムの紹介がありました。また、s k y p e を活用した指導方法事例の紹介もあり、時代の変化を感じましたし、遠隔地を抱える北海道では、活用できると感じました。しかし、ハイテクの流れの中でも落とすはいけないのは、「何を伝えるか」ということの明確さだと思いました。さて、同じように審判員も、「審判員の役割とは何か」、というところの究極の目的を意識して審判業務に当たって欲しいと思っています。先週釧路で開催された高体連サッカー大会では、最終日の17日は雨の降る中の試合でした。こういう厳しい状況の中でこそ、試合をリードしていくという点で、いつも以上に審判員の役割は増します。正しい判定をすることはもちろんですが、試合をマネジメントしていく任務も我々にはあります。フィールドを俯瞰的に見ることもともに、フィールド外にも目を向ける余裕を持ちながら、活動していただけるよう今後も続けてお願いします。

★ J F A 審判委員会 部会新設・再編成



★競技規則改正

J F A H P に改正ポイントの映像がありますので、是非ご覧ください。

■ 今後 予定

U 1 5 帯広大会 8月15日から開催されますが、地元北海道としての審判員の募集を今後します。是非とも多くの方のお手伝いを期待しますので、よろしくお願ひします。



山岸貴司 JFA レフェリーフィットネスインストラクターによる講義に参加して

札幌地区審判員 船橋 昭次

6月14日(火)、15日(水)のそれぞれ19時30分から釧路北陽高等学校にてJFAレフェリーフィットネスインストラクターの山岸貴司氏による審判トレセンの一貫事業である講義が行われました。この日はちょうど全国高等学校総合体育大会北海道予選会の開催期間でもあり全道各地から多くの審判員と審判インストラクター、高校の専門委員が参加しました。

《講義の内容》

*フィットネステストの変更

インターバル走 75m走る+25m歩く 40本

スプリントテスト 主審担当 40m×6

副審担当 30m×6 インターバル 60秒に変更

*審判員は4つに分類される。

- ①フィジカルが弱くてパフォーマンスが悪い。
- ②フィジカルが弱いけどパフォーマンスは良い(予期・予測ができています)
- ③フィジカルは強いけどゲーム中動けない。
- ④フィジカルは強いしパフォーマンスも良い。

*J3リーグの映像から主審のポジショニングの改善点

(争点から離されない動き)

*効率の良いスタート方法

- ①重心を落とす ②インクライン(頭を前に倒す)
- ③ステップバック(片足を下げる)
- ④ダウンムーブメント(腕を後ろに大きく振る)

*腹式呼吸による体への影響

2~3分間鼻でゆっくり大きく呼吸する。椅子に座った状態で上半身を左右にひねると腹式呼吸をする前と後では可動域に差が出ました(個人差あり)

また15日は実際に全国高等学校総合体育大会北海道予選会の2試合をビデオ撮影し、2名の主審の動きを参加者で確認しました。次の展開を予測しての動き出しやバイタルエリアでの説得力あるポジショニング、走り方やシグナルといった姿勢についても学ぶことができました。そして試合前のウォーミングアップを4人の審判員で一緒に行うことで両チームや観客に審判チームの結束力を示せると同時に良い信頼関係が築けます。

今回の講義で学んだことをしっかり実践し、暑さにもしっかり対応できるコンディション作りと説得力のあるポジショニングを心がけたいと思います。

